

科目	文学				
時間数	1単位 15時間	授業方法	講義	授業時期	1年
講師名	⑤内田 泉				
ねらい	優れた文学作品を読み鑑賞することで、看護を担うにふさわしい人の痛みのわかる豊かな感性や強い意志・高い倫理観を育てる。さまざまな死生観を学ぶとともに、自分の死生観が持てるよう考えを深める。自分自身を見つめ、自分について考えを深め、成長を図る。 自分の考えや思いを表現する力を養うとともに、人の話に耳を傾ける姿勢を育て、他者の思いをくみ取る力をつける。				
目標	1. 評論・詩歌・小説・古典・ノンフィクション等を読み、作者の生き方やモノの見方・考え方を学び、その背景となる歴史や社会にも関心を持ち、今を生きる自分の生き方について考えを深め、感想・意見を文章あるいは口頭で発表する力を養う。 2. クラスメートの意見を読み、聞き、また関連作品を自分から読むことで、自分の考えをさらに深める姿勢を育てる。				
授業計画					
回	内容				
1	ガイダンス シラバス説明 テキスト1 評論「死ぬことと生きること」(土門拳) 幼い息子を亡くした作者の思い、作者の死生観を読み取り、自分は「死」についてどう考えているか、どう生きていきたいか、今の自分の死生観を書く(課題)。				
2	＜発展 土門拳の写真(若き看護婦の肖像、出征する日赤看護婦、原爆被害等)を見、戦争と平和について考える。＜参考 梯久美子「百年の手紙」従軍看護師の戦地からの手紙 アレクシエーヴィッチ「戦争は女の顔をしていない」等＞				
3	テキスト2 近代詩「仮緋帯所にて」(峠三吉)を鑑賞し、作者の原爆への怒りを読み取る。＜発展 他の原爆文学作品も読み、核廃絶・平和を守るために私達がしなければならないことについて考え、意見文を書く。(課題)＞				
4	テキスト古典4「方丈記」「養和の飢饉」を災害文学として読む。＜他の災害文学作品も読み、人として、将来の看護師として大災害などの危機に直面した時どうありたいか、あるべきか、自分の生き方について考え、意見文を書く(課題)＞				
5	テキスト5 小説「城の崎にて」(志賀直哉)作者の死生観を読み取る。「人はいつか死ぬ」ではなく「自分も必ず死ぬ」と考えられるか、今の自分の死生観を書いてみる(課題)＜発展「和解」長女の夭折と次女出産立ち合いが作者に与えた影響＞				
6	テキスト6「短歌と俳句」＜発展 永田和宏「近代短歌」近代の闘病・看護・介護の短歌を鑑賞し、患者・家族の思いを知る。鑑賞文を書く(課題)				
7	試験				
8	テキスト8「清光館哀史」(柳田国男)人生の儚さ・哀歎への作者の感慨を読み味わう。＜発展「遠野物語」明治三陸大津波＞				
	講義までにテキストの作品を必ず読み、初期感想を書いておくこと。				
評価方法	1 試験成績(100点満点)2 感想文・意見文・プリント等の課題・提出物の評価 3 授業態度(発表・出欠含む)の評価以上を総合評価する				
教科書	テキスト 大河原忠蔵編著「看護師教養講座国語」 上記の発展作品以外にも多くの作品を紹介するので、積極的に読んで考えてもらいたい。				